

社会のために使いたい力

川口市立戸塚中学校3年 戒 来美子

私は父が日本人で母がフィリピン人のハーフだ。小学生の頃は二年に一度、家族と一緒にフィリピンに行っていた。いとこ達とプールで遊んだり、ご近所さん達も交えて誕生日を祝ったりと、たくさんの思い出が懐かしく感じる。当時の私はフィリピンの文化や生活、日本とは全く違う街中の空気が好きだった。

昔から母はよくフィリピンについて話してくれる。学校の話の中で「フィリピンの学校は、授業料は無料だけど、教科書は学校のを借りて使うんだよ。」と聞いた時は、とても衝撃的だったことを今でも覚えている。その瞬間に思い出したのは、母方のいとこ達が持っていたボロボロの教科書。母方のいとこはみんなフィリピンの学校に通っている。とても勉強熱心で、将来は医者や教師になって家族に恩返しをしたり、誰かを助けたい、と言っている姿がとても印象的だった。フィリピンの学校に通う生徒は、学校から教科書を借りるが、生徒数が多くて教科書の数が足りず、近くの席の子同士で教科書の周りに集まり、授業を受けるときもあるらしい。日本の小中学校では一人一人に教科書が無償で渡され、教科書を囲むことはほとんどない。いとこ達はどんな環境であっても、夢を叶えるために一生懸命勉強をしている。そんないとこ達を私は心の底から尊敬している。

近年の日本では、税金に対して不満を示す人が増えている。その中でも税金はなくなればいい、と言う人に私は聞きたい。それでいいのだろうか、と。自分の納めた税金の細かい用途までを知らず、日本の充実したサービスを当たり前だと認知しているのであれば、少し視野を広げてほしい。義務教育を受ける今の小中学生のみならず、現代の日本社会で働く大人たちは、顔も知らない誰かの納めた税金によって義務教育を受けて育ち、様々な公的サービスのおかげで今の自分があるという事に有難みを感じるべきではないだろうか。また税制ができた歴史、社会的・政治的な背景を理解し、過去の人々が作り上げた現代の税制に対する印象や考えを改め、今後の税の在り方について考えるべきではないだろうか。

日本の舗装された道を歩く度に感じる事としては、税金は人々を平等にするため、支えるためにあるという事だ。日本に住んでいると、忘れてしまう事がたくさんある。私の当たり前は、他の誰かにとっては特別であるということ。

税金は社会だけでなく、一人の人間の生きる世界を変える一つの手段であり、これから先の教育や医療、福祉など様々な面での発展を助けるものになる。私は一人でも多くの方が税について考え、より良い日本の社会を築いてほしい。私は大人になったら、無償の教科書によって得た知識や、培われた思考力を日本のみならず、世界のために使いたいと思う。